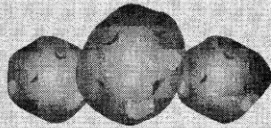


深型プランターで

じゃがいもを



作ってみよう。

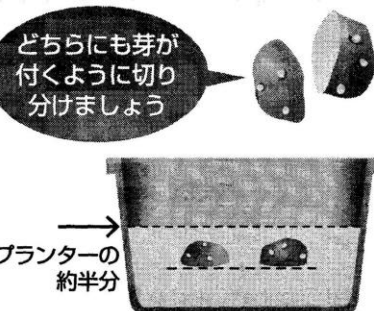
たっぷりな土で
収量アップ!

1 植付け

春植え 2~4月 秋植え 8~9月

プランターの約半分まで土を入れ、5~6cmくらいの深さに種いもを2~3個植え付けます。

※植え付ける際は、種いもの切り口を下にしましょう。
※植え付け時期は目安です。



2 芽かき・追肥 増し土 1回目

発芽して10~15cmほどに育ったら

1株1~2本ほどに芽かきをし、追肥をして、5~6cm増し土をします。

※太くて良い芽を残すのがポイント。

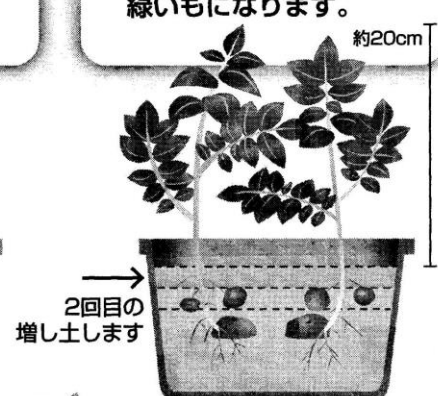


3 増し土 2回目

芽が20cmほどに成長したら

追肥して、5~6cm 2回目の増し土をします。

※土が不十分ですと、種いものに日が当たり緑いもになります。



じゃがいも栽培は、
手間がかからず、失敗も少ない。

春植えに向く品種...キタアカリ、ダンシャク、
メイクイン、とうや など
秋植えに向く品種...デジマ、ニシユタカ など

ワンポイント

- ・芽かきをせずに、たくさんの小さいもを楽しむこともできます。
- ・掘りたてのいもは表面が濡れているので、風通しの良い日陰で乾燥させてから袋や箱に保存しましょう。

4 収穫

春植え 6~7月 秋植え 11~12月

地上部が黄色く
枯れ始めたら収穫です。

(収穫時期は、地域により異なります。)

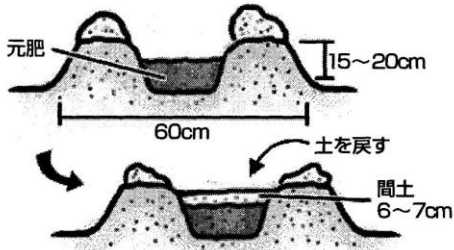


(株)コメリ 新潟県新潟市南区清水4501番地-1

美味しいジャガイモのつくり方

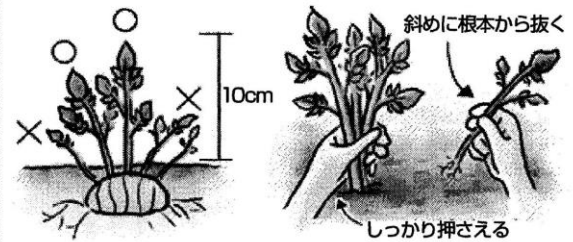
※植え付け後の腐敗予防のため植え付けは、好天が続き、土が良く乾いている時に行ないましょう。

1 畑の準備



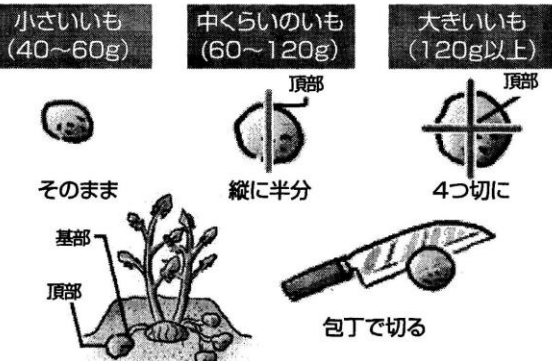
- 水はけのよい土壤に植えつけします。
- 土をよく耕やし、幅を60cmくらいにして畝(うね)を作ります。
※石灰の施し過ぎに注意。
- 元肥→じゃがいも配合肥料 100~150g/m²
堆肥 500g/m²~1,500g/m²

4 芽かき



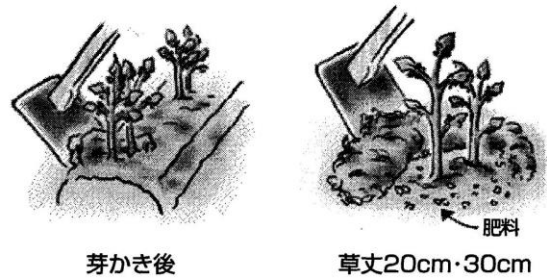
- 定植後、10cm位に芽が伸びたら、太くて良い芽を1~2本ほど残します。
(芽の本数が多いと、いもが小さくなります。)

2 種いもの準備



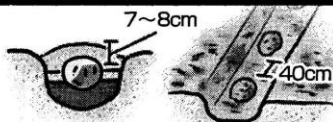
- ※頂部=いもが株とつながっていた部分の反対側
- 種いも用(指定種苗検査合格品)として売られている物を使用します。※食用のいもは種いもに使用しないでください。(病害発生の原因となります。)
- 種いもは1アール(100m²)当たり20~25kgが目安
- 頂部の位置を確認し、いもを切ったら切り口が乾くまで日陰干しします。(15~20℃の適温なら2、3日で切り口は乾く為、切り口の消毒は特に必要ありません。)
- ※秋植えの場合は、なるべく切らずに植え付けます。
(暑さで切り口からの腐敗を防ぐためです。)
- ※秋植えできる品種(デジマ、ニシユタカなど)

5 追肥・土寄せ



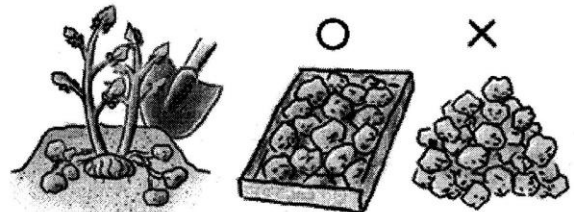
- 芽かき後、株もとに土寄せをします。そして草丈が20cmと30cmになった時ごとに、追肥と土寄せをします。土寄せが不十分だと、いもが日に当たり緑いもになります。

3 植え付け



- 種いもの切り口を下向け、間土の上に40cm間隔に置き、その上に7~8cm覆土します。
(切り口を下にすると出芽が1~2日早まります。)
- ※秋植えは、そのまま植え付けします。

6 収穫



- 花が咲き終わってから数週たち、葉や茎が黄色く枯れてきたら、収穫の時期です。晴天が数日続いた日に、収穫しましょう。

注意 収穫したいもは、日陰で乾かした後に、積み上げないようにして、貯蔵してください。(日の当たる場所だと、緑化します。緑化すると、品質の低下及び毒素であるソラニンが生成されエグ味が出ます。ソラニンは芽に多く含まれているので、しっかり取って調理してください。)

(株)コメリ 新潟県新潟市南区清水4501番地-1